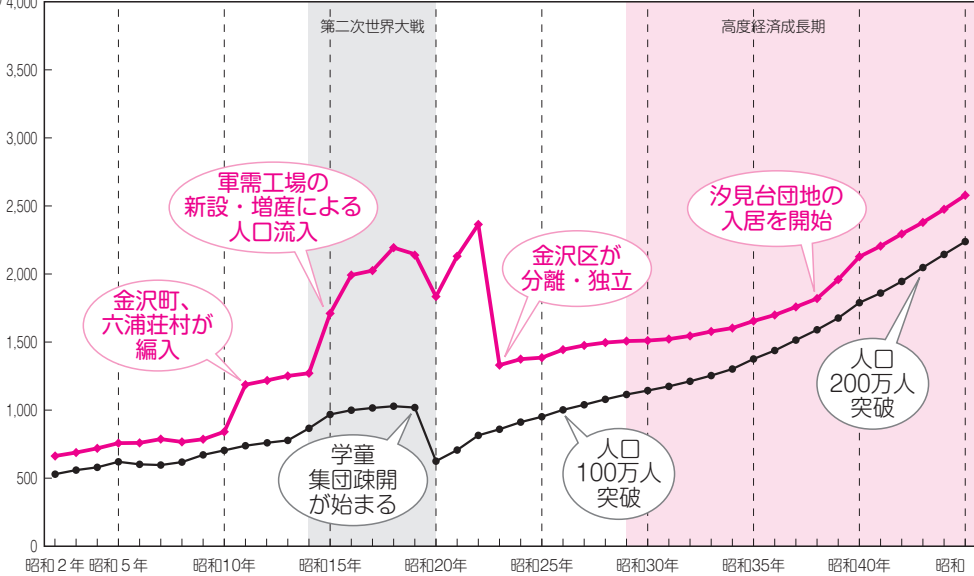


人口

◆横浜市と磯子区の人口の推移

【横浜市】

(千人) 4,000



区制施行により鶴見区・神奈川区・中区・保土ヶ谷区・磯子区が誕生(昭和2年)

ニューヨーク株式会社大暴落、世界恐慌始まる(昭和4年)

港北区・戸塚区が誕生(昭和14年)

横浜大空襲(昭和20年)
西区誕生(昭和19年)
南区誕生(昭和18年)

磯子区の一部が分区し、金沢区が誕生(昭和23年)

テレビ放送開始(昭和28年)

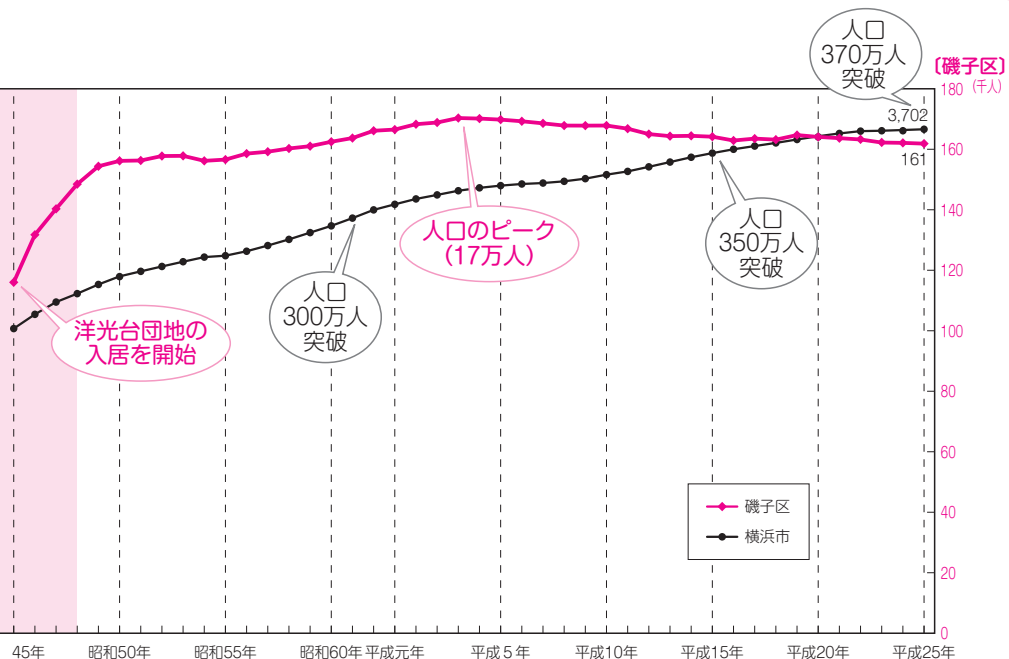
横浜開港100年(昭和33年)

マリンタワー完成(昭和36年)

東京オリンピック開催(昭和39年)

港南区・旭区・緑区・瀬谷区が誕生(昭和44年)

※昭和2～9年は公簿調査による戸籍人口、昭和10年以降は国勢調査及び推計人口調査によります。ただし、昭和5年は国勢調査、昭和16、23年は常住人口調査、昭和19～21年は人口調査によります。



昭和45年 洋光台団地の入居を開始

昭和48年 JR根岸線が全線開通
石油危機(洗剤・トイレトペーパー不足が深刻化)

昭和50年 磯子区制50周年(昭和52年)

昭和53年 横浜スタジアム完成、大通り公園開園(昭和53年)

昭和61年 区の木「梅」、区の花「コスモス」を制定(昭和62年)
栄区・泉区が誕生(昭和61年)

昭和58年 区のシンボルマークを制定(昭和58年)

平成元年 金沢シーサイドライン開通、
横浜ベイブリッジ開通(平成元年)

平成5年 磯子区制60周年
青葉区・都筑区が誕生(平成6年)
横浜ランドマークタワーオープン(平成5年)

平成9年 磯子区新総合庁舎が完成

平成10年 横浜国際総合競技場オープン(平成10年)

平成14年 磯子区制70周年(平成9年)

平成16年 みなとみらい線開通(平成16年)

平成19年 2002 FIFAワールドカップ
日韓開催(平成14年)〜決勝戦は横浜で

平成21年 区のマスコットキャラクター「いそっぴ」制定(平成23年)

平成21年 東日本大震災(平成23年3月11日)
横浜開港150周年(平成21年)

平成23年 磯子区制80周年(平成19年)

※各年10月1日現在。ただし、昭和2～4年、6～9年は12月31日現在、昭和18年は12月1日現在、昭和19年は2月22日現在、昭和20年は11月1日現在、昭和21年は4月26日現在、昭和23年は8月1日現在。

◆年齢三区分別人口の推移 ～少子高齢化がさらに進行～

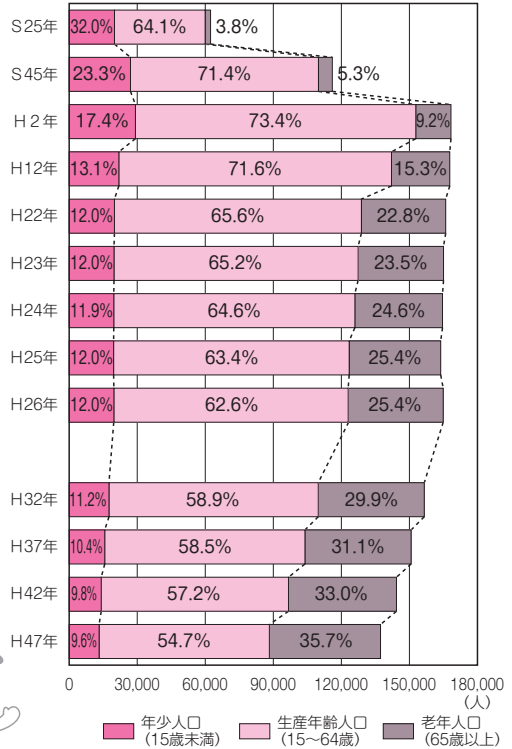
年少人口(15歳未満)の割合は減少傾向で推移し、平成2年には総人口に占める割合が20%を下回りました。平成17年からは12%前後で推移していますが、少子化が進行している状況といえます。

一方、老年人口(65歳以上)の割合は、増加傾向で推移し、磯子区では平成22年に総人口に占める割合が20%を超え、その後も増え続けています。平成25年には区民の4人に1人が65歳以上の高齢者となっています。

現在25.4%となっている磯子区の老年人口の割合は、2015年(平成27年)には約27.5%、2020年(平成32年)には約30%となる見込みだよ。

横浜市将来人口推計

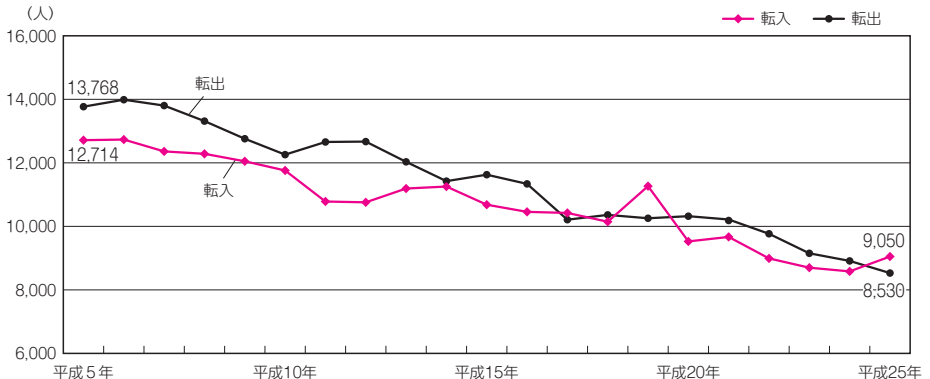
検索



※各年国勢調査、H12年以降は登録人口(各年3月末日現在により掲載)

◆人口異動の推移(磯子区)

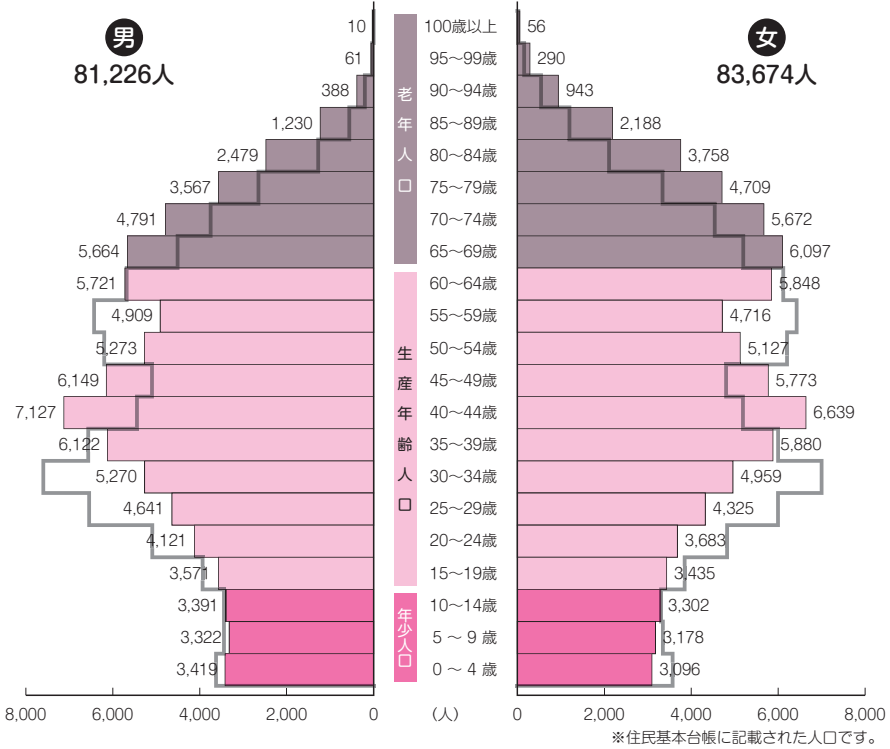
〈転入・転出の推移〉～6年ぶりに転入が転出を上回る～



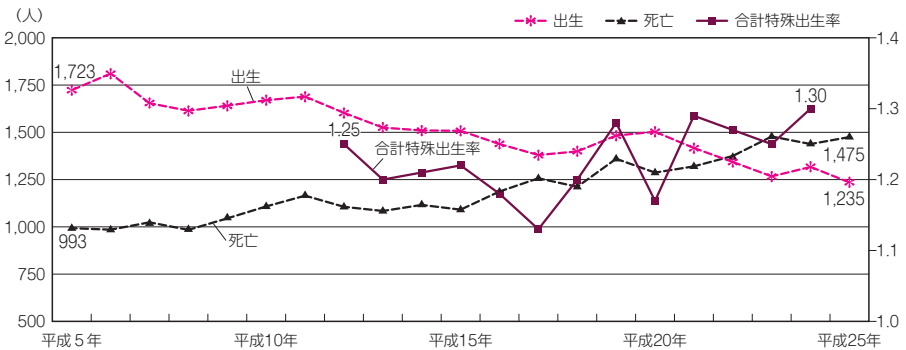
※各年1月1日～12月31日 (横浜市人口ニュース)

◆人口ピラミッド(磯子区)

平成26年3月末日現在
 ※ □ は平成16年3月末日現在



〈出生・死亡の推移〉～出生者数を死亡者数が大きく上回る～



※各年1月1日～12月31日
 ※合計特殊出生率は、1人の女性が一生に産む子どもの平均数です。
 ※年齢15歳～49歳の年齢5歳階級ごとに算出した出生率の合計で、平成12年～24年までの数値を掲載しています。

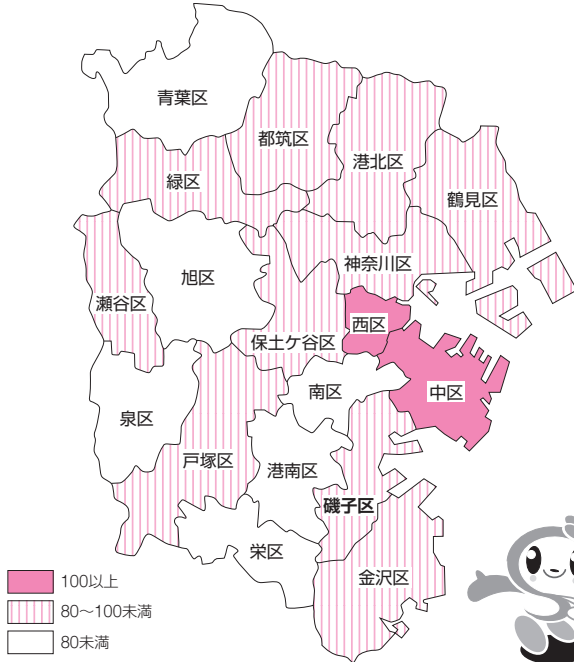
(横浜市人口ニュース)

◆ 区別昼夜間人口比率

昼夜間人口比率とは、常住人口(夜間人口)に対する昼間人口の割合です。100を超えると通勤・通学等の流入が多く、その地域に昼間、人が集まっていることを示します。磯子区では、前回調査(平成17年)と比べて3.7ポイント、市全体で1.1ポイント上昇しました。

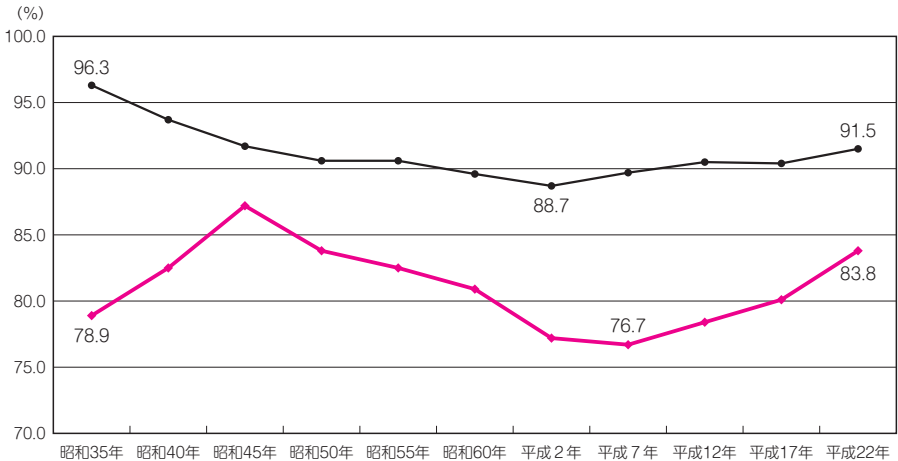
参考：西区 179.7%(全国13位)
中区 166.6%(全国22位)

磯子区の
昼夜間人口比率は83.8%で
横浜市内では
18区中、10番目だよ。
(平成22年10月1日現在)



(平成22年国勢調査)

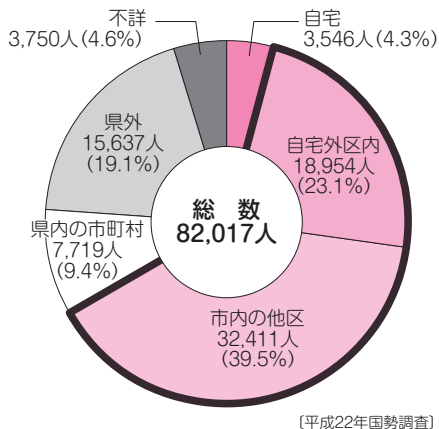
◆ 昼夜間人口比率の推移 ~ 上昇傾向に改善 ~



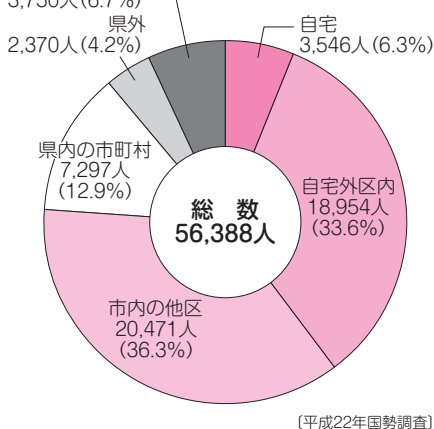
◆ 昼夜間人口比率(磯子区) ● 昼夜間人口比率(横浜市)

(各年国勢調査)

◆磯子区民の通勤・通学先 (15歳以上)



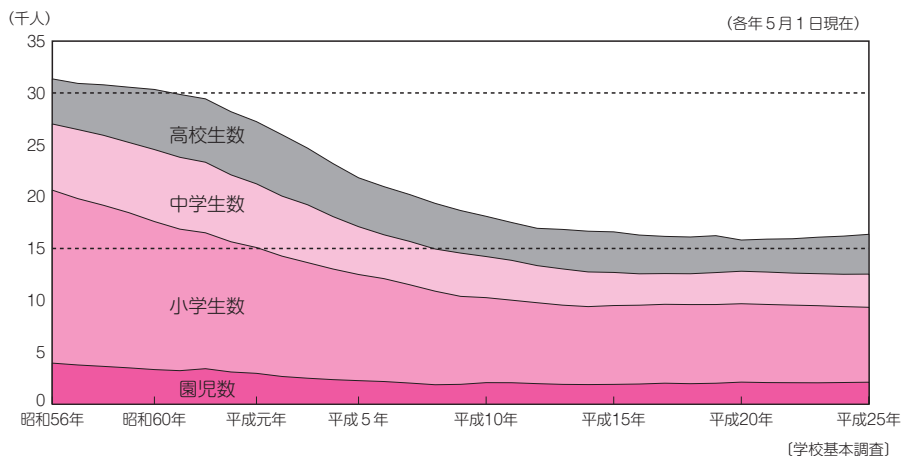
◆磯子区へ通勤・通学する人の住所 (15歳以上)



自宅で働く人を除き、市内で従業・通学する人の割合は、磯子区では62.6%(全市52.5%)で18区中1位だよ。(平成22年10月1日現在)

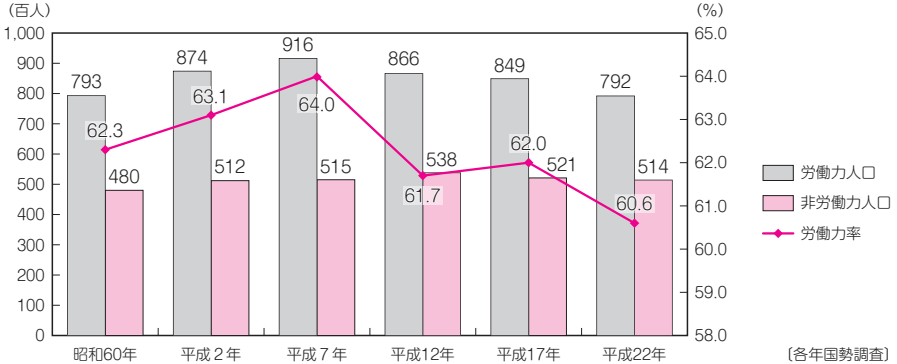
◆園児・児童・生徒数の推移(磯子区)

平成25年は園児2,109人、小学生7,223人、中学生3,119人、高校生3,838人、合計16,369名となっています。ピーク時(昭和56年、合計31,357名)と比べてほぼ半減しており、明らかな少子化傾向が見られます。



◆労働力人口 ～磯子区は大幅に減少～

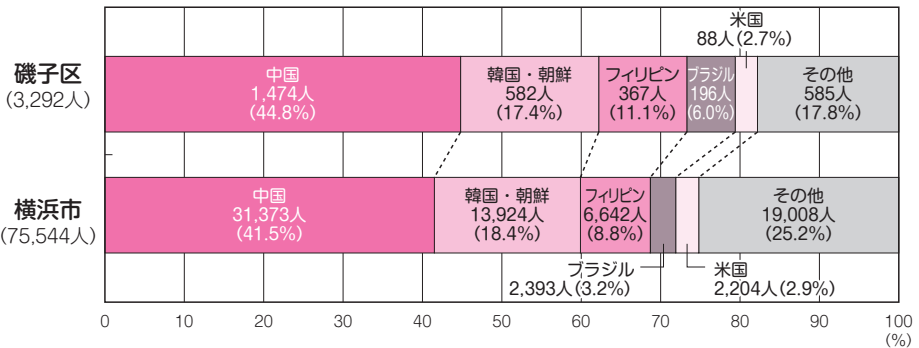
労働力人口とは、満15歳以上の人口のうち、就業者と完全失業者(就業していないが、就職活動をしている失業者)の合計のことをいいます。磯子区の労働力人口は平成17年から平成22年の5年間で6.7%も減少(全市1位)しており、市全体でも戦後初めて減少しました。



※昭和55年以前は、人口50万人以上の大都市等に限り集計・公表されており、磯子区の数字は集計されておられません。

◆外国人人口 ～東南アジア諸国が7割超～

平成26年3月末日現在



コラム1

国勢調査とは？

国勢調査は、「我が国の人口・世帯の実態を明らかにすること」を目的として行われる最も重要な統計調査で、5年ごとに実施され、平成27年には20回目となります。

国勢調査から得られた統計は、国や地方公共団体における各種の行政施策を立案するための基礎資料として用いられ、研究・教育・経済活動などで利用されています。